

平成 26 年 6 月 14 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520261

研究課題名(和文) 中世道行文形成過程の基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental study of the formation process of the Michiyukibun in the Middle Ages

研究代表者

岡田 三津子 (OKADA, Mitsuko)

大阪工業大学・知的財産学部・教授

研究者番号：50201984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、宴曲詞章の検討を通して、中世における道行文の形成と展開に関わる基礎的考察を行った。以下に、三点に分けて考察の結果を述べる。第一に、宴曲譜本のすべてを網羅することを目指して、室町期の譜本を中心とした文献調査を行った。そこでは、江戸時代の能役者が宴曲譜本を収集していたことなどを明らかにした。第二に、宴曲詞章の文学史的影響について検討し、論考を書いた。最後に、特別研究会を開催した。そこでは多くの研究者が宴曲詞章を検討する場を提供することができた。

今後の課題は、これまでの成果を踏まえ宴曲に特徴的な用字の訓例索引を作成することである。さらに、用字の相違に注目した校訂本文作成を目指す。

研究成果の概要(英文)：In this paper, through the study of Enkyoku Shisho, I had a comprehensive discussion related to the Formation and Development of Michiyukibun in the Middle Ages.

The following describes the results of the discussion can be divided into three points. The first, it aims to cover all of this feast the Enkyoku, we survey the literature with a focus on Huhon (music book) of the Muromachi period. There, I made; it clear that Noh performer of the Edo period had to collect the banque t this Huhon of Enkyoku. Secondly, the studied literary history effects of the Enkyoku Shisho, wrote a 2 Part discussion. At the end, I held a special study group. And I was able to provide a place where many rese archers announce the Enkyoku Shisho there.

The future task is to based on the past achievements, to create a Kunrei index scripts characteristic of Enkyoku. In addition, I aim to create castigation text with a focus on differences in the script.

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：宴曲 譜本 平家物語 謡曲 用字

1. 研究開始当初の背景

(1)道行文は、旅の経過地名を枕詞・懸詞・縁語等の修辞法を連ねつつ進行と旅情を表現する韻文と定義される。中世は道行文の開花期として位置づけられるが、研究史上において十分な考察がなされているとは言い難い状況にあった。そこで本研究では、道行文のなかで宴曲に焦点を当てることとした、

(2)従来、宴曲は、歌謡研究の立場から論じられることが多かった。その主要な成果の一つに『早歌全詞集』(外村久江・外村南都子校注、1992年、三弥井書店)がある。宴曲全173曲(本曲161曲・外物12曲)を集大成し、主要伝本による本文校訂を行ったうえで、全曲に注を施している。

(3)研究代表者は、『早歌全詞集』を底本として、共同研究により『宴曲索引』を刊行した(伊藤正義監修、岡田三津子他5名、2009年、和泉書院)。宴曲全173曲に用いられた詞章の語彙および用例索引である。その過程で、厳密な本文校訂がなされないままの索引作成に限界を感じるようにもなった。宴曲の本文は「正本」として伝えられることから、現存伝本間に大きな異同はない。その反面小異も多く、それが本文の解釈と深く関わる場合がある。宴曲詞章が他の作品に与えた影響を明らかにするためには、宴曲の本文研究が優先されるべきであると考えに至った。

2. 研究の目的

本研究は、宴曲詞章の文学史的考察を基点とし、それが軍記物語・謡曲など他のジャンルに与えた影響を丹念に辿ることによって、中世における道行文の形成と展開にかかる基礎的考察を行うものである。日本中世における和漢混淆文成立に際し、宴曲詞章が与えた影響の大きさには計り知れないものがある。宴曲詞章の検討を通して、中世における道行文の形成と展開を明らかにすることは、日本文学史研究にも大きく寄与するものである。

3. 研究の方法

(1)宴曲譜本の悉皆調査を目指し、室町期の譜本を中心とした文献調査を行った。必要に応じて写真撮影も行った。

(2)宴曲詞章の文学史的影響について検討を加えた。具体的には、曲舞・謡曲・平家物語等との影響関係について考察した。

(3)冷泉家時雨亭文庫本を含めた室町期譜本によって、用字の相違にも着目した熊野参詣の対校本文を作成した。

(4)海道(宴曲集巻第四所収)・熊野参詣(宴曲抄所収)・善光寺修行(宴曲抄所収)をテーマとして特別研究会を開催し、研究分

野にとらわれず宴曲詞章を読み解く場を提供した。

4. 研究成果

(1)用字に着目した校訂本文作成の重要性:調査の過程において、室町期の譜本だけを見ていたのでは、宴曲に特徴的な漢字使用の例を見落とす可能性が高いことが判明した。続群書類従系の伝本には、「菩薩(シドロモドロ)」「中様(ナカラヒ)」「伊(ヤスラフ)」などの興味深い用字(訓例)がある。ほとんどの場合、室町期の譜本では仮名書きされているため、従来の宴曲研究では、これらの用字に着目することはなかった。しかし、宴曲の特徴的な漢字使用が、他の文学作品と共通する場合もあり、文学史的な視点からこれを看過すべきではない。また、国語学の史料としても有効となる。用字に重点を置いた校訂本文を作成する必要があることを確認できた。

(2)文献調査の結果、現在公開されている所蔵者について変更を加えるべき伝本があることが判明した(例:高知市立図書館 土佐山内家宝物資料館)。個人蔵の伝本のなかには、所蔵者が物故者となり、その後の所在が未確認のままのものがある。また、諸々の事情で所蔵機関が変更になっている場合もある(例:外村久江 国文学研究資料館)。悉皆調査に基づいた宴曲伝本一覧・所蔵一覧を作成することは、今後の宴曲研究進展のためにまず必要な作業となることを確認できた。

(3)続群書類従系伝本の代表的伝本とされてきた神宮文庫本が、冷泉家時雨亭文庫本ときわめて近しい本文を有することが判明した。その結果、外村久江による従来の伝本分類そのものを見直す必要があることが確認できた。

(4)宮内庁書陵部蔵の続群書類従宴曲写本のうち、『拾葉集』のみが譜本の写しであることを発見した。従来の宴曲研究では、北大本『拾葉集』上巻や続群書類従本は、宴曲が謡われなくなった江戸期の写本として、ほとんど顧みられることがなかった伝本である。すなわち、室町期に成立した宴曲譜本の調査だけでは不十分で、現存する宴曲伝本全体に調査の幅を広げる必要があることを再確認した。

(5)2013年8月、国立国会図書館蔵『外物』と北海道大学附属図書館蔵『拾葉集』上巻に岩井直恒と署名した人物が、江戸時代に京都で活躍した能役者と同一人物であることを突き止めた。さらに国会本と北大本の二本が、岩井家から異なる時期に外に出て、それぞれ国会図書館と北海道大学に入ったことも解明した。江戸時代の能役者が宴曲に興味を抱き譜本の収集を行っていたことは宴曲の享

受史においても重要な事例であることを述べた(岡田三津子「岩井直恒の宴曲『拾葉集』書写」『大阪工業大学研究紀要人文社会篇』第52巻第2号、2014年2月28)

(6)『宴曲集』巻第四所収 海道 が琳阿作の曲舞 東国下 および『閑吟集』216番の小歌に与えた文学史的な影響について明らかにした(岡田三津子「面白の海道下や一宴曲 海道 の継承と変容」(『中世の芸能と文芸』2012年5月、竹林舎)

(7)琳阿作 西国下 が、覚一本『平家物語』巻第七「一門都落」「福原落」巻第八「太宰府落」巻第九「落足」等の章段に拠りながら、『外物』所収 領巾振恋 の一節をも利用して、寿永二年の都落ち後の平氏一門の道行を描き出していることを検証した(岡田三津子「曲舞 西国下 に見る琳阿の『平家物語』享受」、『軍記物語の窓 第四集』2012年12月、和泉書院)

(8)世阿弥が自作の謡曲《忠度》第八段の作詞に際して、西国下 の詞章を用いていることを解明した。西国下 はまた、宴曲 領巾振恋 の詞章を用いている。すなわち、宴曲 曲舞 平家物語 謡曲という文学史的影響関係を辿ることが可能となる(「謡曲《忠度》における曲舞 海道下 撰取」、関西軍記物語研究会第77回例会)

(9)研究分野にとらわれず宴曲詞章を読み解く場を提供したことで、従来、歌謡研究者が細々と研究対象としてきた宴曲が文学史的に意義のあるものであることを広く知らしめた。その成果の一つとして、「和歌・漢詩文・物語・仏教など、様々な分野からアプローチすることで、宴曲の新たな性格や価値が見えてくるのではないだろうか」という家永香織の発言を挙げることができる(「宴曲」熊野参詣」と和歌」『國語と國文学』平成25年10月号)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

岡田三津子、岩井直恒の宴曲『拾葉集』書写、大阪工業大学研究紀要人文社会編、査読無、第58巻2号、2014、pp86-76(1-11)

岡田三津子、岩井直恒と宴曲、能(京都観世会会報誌)、671号、査読無、2014、pp1-1

櫻井陽子、覚一本『平家物語』の伝本と本文改訂その二 - 西教寺本・天理本・龍門文庫本の検討から -、駒澤国文、51号、査読無、2014、pp1-30

鈴木孝庸、資料紹介『久知軍記』翻刻、佐渡・越後文化交流史研究、査読無、第14号、2014、pp40-55

鈴木孝庸、平家語りにおける終始感について - 平曲 下り 中音 の墨譜の検討、

新潟大学人文科学研究、査読無、134、2013、pp25-43

鈴木孝庸、平曲譜本『吟譜』の息継ぎ点、新潟大学人文科学研究、査読無、132、2013、pp1-16

鈴木孝庸、平曲の声・息継ぎの伝授、新潟大学人文科学研究、査読無、131、2012、pp1-26

岡田三津子、曲舞 西国下 に見る琳阿の『平家物語』享受、軍記物語の窓第四集、査読無、2012、pp407-425

櫻井陽子、覚一本『平家物語』の伝本と本文改訂、軍記物語の窓第四集、査読無、2012、pp1-25

岡田三津子、《先帝》教経の軍語りを導くもの - 乳母に語る一門の最期 -、観世、査読無、79巻9号、2012、pp34-41

岡田三津子、おもしろの海道下や - 宴曲 海道 の継承と展開 -、中世文学と隣接諸学7 中世の芸能と文芸、査読無、2012、pp439-459

岡田三津子、源平盛衰記と謡曲《碇潜》 - なほもその身を重くなさんと -、第68回京都新能パンフレット、査読無、68号、2012、pp14-15

岡田三津子、《船弁慶》義経の転化 - 道狭くならぬその前に - 能 第39回篠山春日能パンフレット、査読無、39号、2012、pp4-5

鈴木孝庸、譜本としての『平家正節』、愛知県立大学文化財研究年報、査読無、5号、2012、pp89-98

櫻井陽子、延慶本平家物語と源平盛衰記の間(その三)、駒澤国文、査読無、49号、2012年、pp59-88

櫻井陽子、『平家物語』の征夷大將軍院宣をめぐる物語、中世文学と隣接諸学4 中世の軍記物語と歴史叙述、査読無、2011、pp97-121

〔学会発表〕(計6件)

岡田三津子、京観世岩井直恒の宴曲『拾葉集』書写、特別研究会「中世道行文形成過程の基礎的研究」、2013年12月21日、大阪工業大学うめきたナレッジセンター(大阪市)

岡田三津子、謡曲《忠度》における曲舞 海道下 撰取、関西軍記物語研究会第77回例会、2013年7月28日、龍谷大学(京都市)

岡田三津子、『参考源平盛衰記』浄書本の成立過程、文化現象としての源平盛衰記(招待講演)2013年6月15日、國學院大學(東京都渋谷区)

岡田三津子、宴曲 熊野参詣 の本文、特別研究会「中世道行文形成過程の基礎的研究 - 宴曲 熊野参詣 を読む -」2012年12月16日、神戸女子大学教育センター(兵庫県神戸市)

岡田三津子、謡曲《碇潜》成立の背景と

なつた怒りの変遷、奈良絵本国際会議(招待講演) 2012年8月4日、海の見える杜美術館(広島県廿日市市)
櫻井陽子、『平家物語』における宴曲の享受 - 重衡関東下向記事を中心に -、特別研究会「中世道行文形成過程の基礎的研究 - 宴曲 海道 を起点として -」2011年12月8日、神戸女子大学教育センター(兵庫県神戸市)

〔図書〕(計 2件)

櫻井陽子、『平家物語』本文考、汲古書院、2013年、606ページ(総ページ数)
鈴木孝庸他15名、戦国軍記事典天下統一編、共著の事典のため担当ページ抽出困難、和泉書院、2011年、904ページ(総ページ数)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡田 三津子 (OKADA, Mitsuko)
大阪工業大学・知的財産学部・教授
研究者番号：50201984

(2) 研究分担者 ナシ

(3) 連携研究者

櫻井 陽子 (SAKURAI, Yoko)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：60211934

鈴木 孝庸 (SUZUKI, Takatsune)
新潟大学・人文科学部・フェロー
研究者番号：90143742